

事業報告

レファレンス協同データベース事業 平成21年度事業報告



関西館図書館協力課協力ネットワー
ク係

佐藤久美子

配布資料

資料① 事業報告

資料② 事業報告

おはようございます。国立国会図書館関西館の佐藤です。よろしくお願いたします。

平成21年度のレファレンス協同データベース事業の活動内容についてご報告いたします。お手元の資料では①と②になります。資料①の内容は、前のスクリーンにも表示いたします。資料②は、資料①の内容をより詳しく説明したものですので、報告の途中あるいはお帰りになられてから、適宜ご覧ください。なお、「レファレンス協同データベース事業」という名称は長いので、事務局では「レファ協」と呼んでいます。今日のお話の中でも「レファ協」と呼びたいと思いますので、ご了承ください。

まず、事業全体の報告をして、その後いくつかの項目について詳しくご報告したいと思います。

1. 経過報告

主な出来事としては、まず5月に前年度のフォーラムの記録集公開を行いました。

続いて6月に「例題にチャレンジ」企画を実施し、第1回企画協力員会議を開催いたしました。

「例題にチャレンジ」では参加館のみなさまに、5題の「例題」から1題を選んで回答を作成し、「チャレンジ用ID」を使ってレファ協に登録していただきました。登録した事例に対して、企画協力員の青山学院大学小田光宏先生、昭和女子大学大串夏身先生よりコメントを付与していただきました。登録された事例は、5題の合計で21件と少なめでしたが、その後のアンケートでは、「自分の回答を他の人の回答と比べることができ、勉強になる」「コメントをもらえる貴重な機会」といった意見をいただきました。

7月には、参加館通信で「教えて、お宅のレファレンス」というインタビューの連載を始めました。これは平成20年度からの継続企画です。昨年は、本日実践報告をしていただく愛知学院大学図書館情報センターの千邑様にもご協力いただきました。

今年度は参加館4館にインタビューを行い、レファレンス処理やデータ登録処理、レファ協の活用方法などの取り組みや課題について紹介いたしました。配信後の記事は、レファ協の

参加館のページに掲載¹しておりますので、こちらをご覧ください。

9月には、同じ係で行っている総合目録ネットワーク事業²またはレファ協事業に未参加の公共図書館 2,881 館に、広報チラシを送付いたしました。現在までに 17 館にご参加いただいております。一定の効果があったのではないかと思います。

10月に入りまして、「教えて！定番事例」という企画³を行いました。企画にあたり、基本的な参考図書やインターネット情報源を使ってすぐに答えられるような事例や、各図書館で頻繁に聞かれ回答の道筋が定まっているような事例を「定番事例」と定義しました。

すぐ回答できた事例やいつも聞かれる質問は、かえってレファ協への登録の対象とらしくいものです。しかし、経験の少ない図書館員や一般利用者の方には役立つ情報ですので、そういった事例の登録促進を図るという目的がありました。

企画への参加に際しては、レファレンス事例を登録する際、備考欄に「定番事例」と入力することを推奨しましたが、実施期間の10月・11月の2ヶ月間で、該当事例は615件になりました。定番事例の登録の必要性についての広報効果もあったのではないかと思います。

また、この企画に合わせて登録依頼文書の送付を行いました。レファ協では、新しく参加された機関には、必ず1件、データを登録してくださいとお願いしていますが、まだ最初の1件を登録されていない参加館、そして最初の1

件のデータは登録したけれども、平成20年以降、つまり、その後1年以上に渡ってデータ登録や更新のなかった参加館、合計174館に対して、データの登録をお願いする文書をお送りいたしました。

この他、10月には、関西館と東京本館で担当者研修会を開催⁴しました。この研修会には、企画協力員でいらっしゃいます青山学院大学の小田光宏先生に、講師としてご協力いただいております。研修の前後にデータベースへの事例登録やレポート提出などの課題があり、なかなか大変という声もありますが、登録したデータについて小田先生からコメントをいただけるということで、非常に好評をいただいております。

年が明けまして、1月には、今年度2度目の企画協力員会議を開催し、今年度の取組みについて簡単な総括をするとともに、今回のフォーラム企画へのアドバイスなどをいただきました。

今月、2月には、先ほど授与式を行いました御礼状の参加館への送付を行います。こちらは、後ほど「9 御礼状送付」の項目で詳しくご説明いたしますので、ここでは省略いたします。そして最後に、本日、フォーラムの開催を迎えております。

以上が、今年度の主な経過報告です。

2. 広報活動

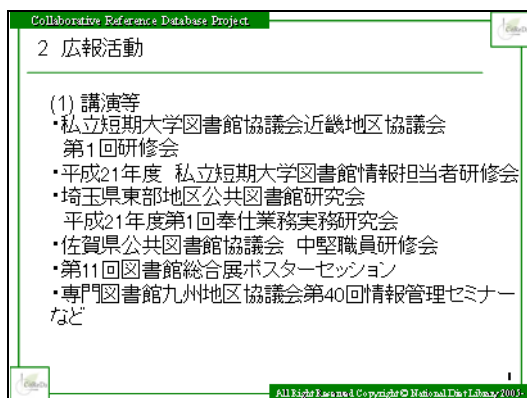
まず、事務局が講師として参加した講演のうち、主なものをスライド6に挙げました。

¹ メールマガジン コラム集
[<http://crd.ndl.go.jp/jp/library/column.html>]

² 総合目録ネットワークシステム
[<http://unicanet.ndl.go.jp/>]

³ 参加館向け企画「教えて！定番事例」
[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/teiban_2009.html]

⁴ 第5回レファレンス協同データベース事業担当者研修会
[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/institute_5.html]



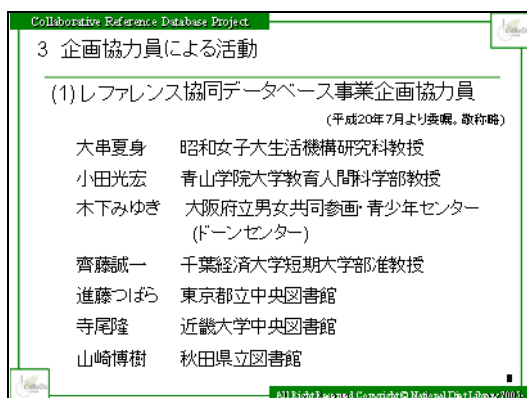
図書館関係団体の主催された各種集会や、都道府県立図書館での研修会などでお話をさせていただいています。

また、事務局で記事を執筆したものが雑誌に掲載されました。

その他にも、ホームページにフォーラムの記録集を公開したり、メールマガジンを定期的に発行するなどして、広報に務めております。

3. 企画協力員による活動

このような、レファ協事務局、つまり、国立国会図書館の職員が行う活動に加えて、レファ協では外部有識者の方のご協力を得るための「企画協力員」という制度があります。「企画協力員」として、現在は、スライド 8 に出ている 7 名の方にご協力いただいています。



2 年の任期でお願いしております、本日も会場前方にいらしてくださっています。また、青山学院大学の小田光宏先生には、後ほどパネルディスカッションのコーディネーターとしてご登壇いただきます。

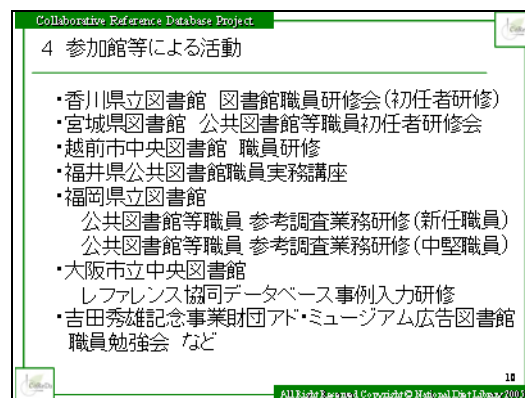
企画協力員の方々には、各種企画についての検討や、レファレンス事例へのコメント付与にご協力いただいたり、外部で講演される際にレファ協の広報をしていただくなど、さまざまな形で事業を盛り立てていただいています。

4. 参加館等による活動

参加館のみなさんが研修会などを開催される際、レファ協を取り上げていただくこともありました。

大阪市立中央図書館の方には「レファレンス協同データベース事例入力研修」として、レファ協メインの研修も開催いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

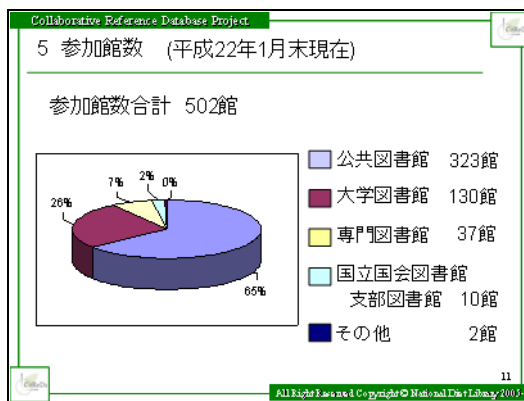
詳しくは、スライド 10 をご覧ください。



5. 参加館数

次に、事業の現況ということで、統計的な数字をいくつかご紹介していきます。まずは参加館数です。

1月末現在で502館と、お蔭様で500館を突破することができました。



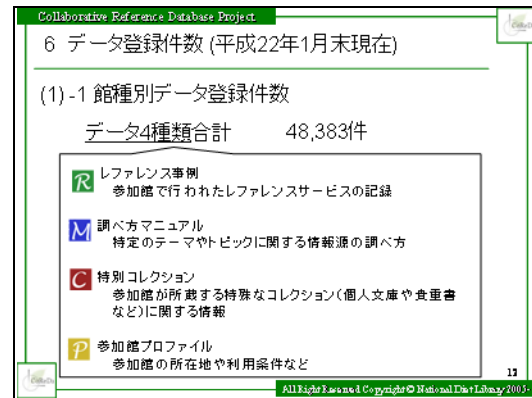
平成21年度は、現在までに24館の新規参加申込がありました。館種別では、公共図書館が6割以上を占め、大学図書館、専門図書館と続いています。なお、「その他」に数えられているのは、東京都公文書館と、実験参加されている京都府立高等学校図書館協議会司書部会の2つです。京都府立高等学校図書館協議会司書部会については、後ほど「8 実験参加」の項目でご紹介いたします。

6. データ登録件数

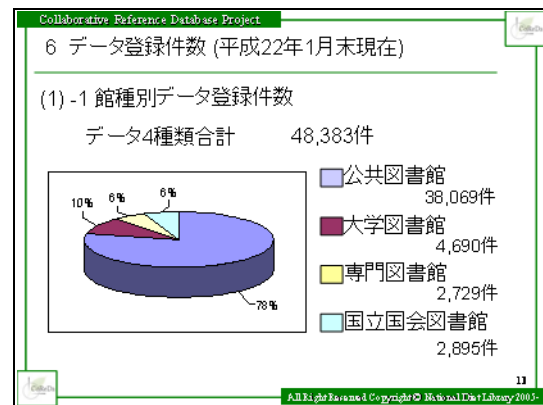
先月、1月末現在、データ4種合計で48,383件と、5万件を目前にしております。

データ4種と申し上げましたが、レファ協には、各図書館で利用者がどんな質問をして図書館員がどんな回答をしたかを記録した、レファ協のメインデータである「レファレンス事例」、特定のテーマやトピックについて情報源の調べ方を説明した「調べ方マニュアル」、個人文

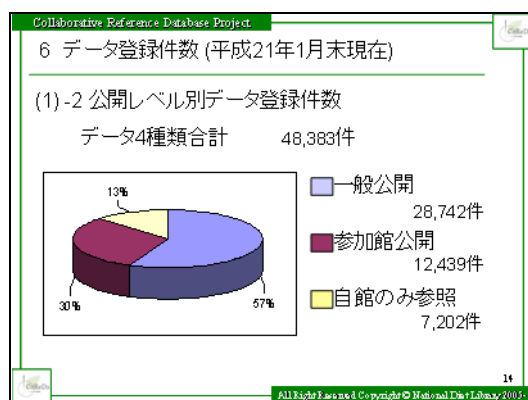
庫や貴重書など、参加館が所蔵する特殊なコレクションについての情報「特別コレクション」、レファ協参加館の情報「参加館プロフィール」の4つのデータが入っています。



館種別の登録件数は、ごく簡単に申し上げれば、参加館数の割合と比例するような結果になっています。



次に、公開レベル別の登録件数です。登録した図書館だけが見られる「自館のみ参照」が約7,000件、事業に参加した機関だけが見られる「参加館公開」が約12,000件、そして、Web上から誰でもアクセスできる「一般公開」のデータが約29,000件です。一般公開のデータは、全体の約6割となっています。



レファレンス事例データの提供数が多い図書館を、スライド 15 に挙げました。

Collaborative Reference Database Project

6 データ登録件数 (平成22年1月末現在)

(2) 提供館別データ公開件数 (一般公開+参加館公開)

①レファレンス事例データ (上位10館)

参加館名	件数
1 埼玉県立久喜図書館	7,253
2 近畿大学中央図書館	2,443
3 国立国会図書館	1,791
4 香川県立図書館	1,653
5 岡山県立図書館	1,304
6 東京都立中央図書館	1,256
7 岐阜県図書館	1,145
8 新潟県立図書館	979
9 秋田県立図書館	977
10 山梨県立図書館	953

All Right Reserved Copyright © National Diet Library 2009

次に、調べ方マニュアルデータのトップテンを挙げています。

Collaborative Reference Database Project

6 データ登録件数 (平成22年1月末現在)

(3) 提供館別データ公開件数(一般公開+参加館公開)

②調べ方マニュアルデータ (上位10館)

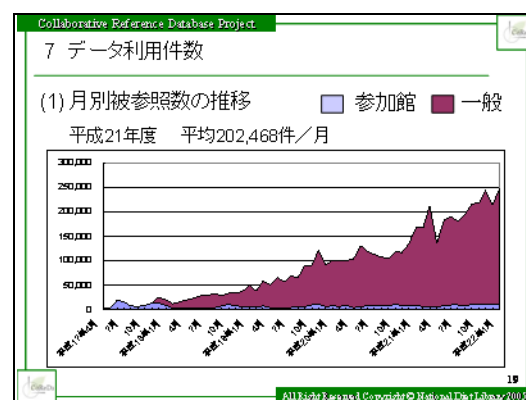
参加館名	件数
1 福井県立図書館	5,781
2 国立国会図書館	191
3 香川県立図書館	163
4 日本能率協会総合研究所マーケティングデータバンク	62
5 埼玉県立久喜図書館	50
6 福岡県立図書館	30
7 大阪府立中之島図書館	25
8 近畿大学中央図書館	22
9 東京都立中央図書館	11
10 相模原市立橋本図書館	10

All Right Reserved Copyright © National Diet Library 2009

お手元の資料では、この次にデータ登録数の推移と月別の新規登録データ数という参考情報が入っておりますが、ここでは特に読み上げません。後ほどゆっくりご覧いただければと思います。

7. データ利用件数

次の「7 データ利用件数」では、「月別被参照数の推移」をグラフにしました。



「被参照数」とは、個々のデータがどれだけのアクセスを受けたかを示す数です。グラフの下の方の青い部分は、参加館がシステムにログインしてアクセスした場合の数、大きな紫の部分が、ログインせずに誰でも見られるメニューからのアクセス数です。平成 21 年度は、月平均で 20 万件ほどのアクセスがありました。一般公開当初の 2 万件台のアクセス数から、約 10 倍に増えています。

次に、アクセス数のランキングを挙げています。

7 データ利用件数
(2) アクセス件数 (上位10館)

参加館名	件数
1 埼玉県立久喜図書館	348,901
2 香川県立図書館	232,439
3 国立国会図書館	170,043
4 近畿大学中央図書館	151,280
5 福井県立図書館	69,049
6 大阪市立中央図書館	67,972
7 東京都立中央図書館	58,224
8 岐阜県図書館	57,915
9 岡山県立図書館	54,956
10 山梨県立図書館	46,892

All Rights Reserved Copyright © National Diet Library 2005

全体の事業報告は以上です。

次に、後ほど詳しくご報告しますと申し上げました、京都府立高等学校図書館協議会司書部会の実験参加、国立国会図書館長からの御礼状の送付、最後に、今年4月にリリース予定のシステム改修についてご報告いたします。

8. 実験参加

現在、高校などの学校図書館は、レファ協の参加対象とはなっていません。

国立国会図書館では、サービス対象を「18歳以上」とする期間が長く、それ以下の年齢の方に対するサービスは、平成12年に開館した国際子ども図書館によって開始されました。現在でも、国際子ども図書館以外の施設の利用対象は18歳以上としています。そのため、事業立ち上げ当初には、学校図書館でのレファレンスの実態やニーズについて把握できず、時期尚早ということで、学校図書館を参加対象とするかどうかは見送られていました。

また、参加の形態についても、図書館ごと1

館ずつの参加をお願いしており、いくつかの図書館が集まった「グループ」としての参加については規定がありません。

しかし、事業が本格化して拡大するにつれ、学校図書館やグループとしての参加についてご要望やお問合せをいただくことが増えてきていました。そのため、「京都府立高等学校図書館協議会司書部会」、以下、「司書部会」と呼ばせていただきますが、この司書部会の方々には、「学校図書館」によるレファ協の活用、そして「グループ」での参加の可能性をさぐる実験的な試みとして、平成20年8月より事業に参加していただいております。

この「司書部会」は、京都府内の学校図書館司書の方々で構成されています。レファレンス事例集やパスファインダーを作成したり、メーリングリストを使って相互協力を行うなど、積極的なレファレンスサービスを展開されてきましたが、この活動の中で、「事例集の作成は、担当者の負担が大きい」、「情報をリアルタイムに共有するには、データをネットワーク上に置いた方がよい」といった課題が挙がっていたそうです。そういった課題を解決するためのひとつのツールとして、レファ協を活用したいとお申し出を受け、検討の結果、学校図書館への司書配置も進んでおり、レファレンスサービスも積極的に行われているという現状を考え、学校図書館でのレファ協活用の可能性を探るため、実験的に参加していただくという結論になりました。

実験参加を開始されてから約1年半経った1月末現在では、登録数95件、コメント数59件と活発に登録していただいております。具体的な取組としては、司書部会総会でレファ協活用事例の紹介を行ったり、レファレンス技術を高めるための自己研修の場としてレファレン

ス・スタジアム、レファスタを開設されたりしています。レファスタは、レファ協を使って役員より「お題」を出題し、それに対する回答に個人、もしくはブロックで取り組む企画で、現在までに6つの「お題」が出題されているそうです。

司書部会役員の方からは、学校図書館のレファ協参加について、司書が各校で一人のため、司書部会としての参加でないとなかなか活動の継続が難しい、学校なので教科活動にかかわってのレファレンスが多いというだけで、事例そのものに他館種との大きな違いを感じたことはない、といったご意見をいただきました。来年度は、この司書部会の方々の利用状況を見ながら、学校図書館やグループとしての参加について検討していきたいと考えています。

9. 礼状送付⁵

先ほど、データ登録件数やアクセス件数のランキングをご紹介いたしましたが、このように、当事業に多大なご協力をいただいた参加館に対し、感謝の意を込めまして当館の長尾真館長より御礼状を送らせていただくことになりました。昨年に続いて2回目のお礼状送付になります。

お送りする参加館の基準は、3点あります。まず1点目は、累積データ登録件数として、平成21年12月31日時点でのレファレンス事例データと調べ方マニュアルの登録件数を計算し、新たに1,000点以上となった館です。データの公開レベルに応じて、点数を加算しています。今年度の対象館は2館でした。

2点目の基準は年間データ登録数です。レファレンス事例データおよび調べ方マニュアル

データの平成21年12月31日までの累積点数から、平成20年12月25日までの累積点数を引いた点数が、200点以上の館です。今年度の該当は16館でした。

最後、3点目の基準は、年間データ被参照件数、これは先ほど出てきましたアクセス数のことですが、平成20年12月26日から平成21年12月31日にかけてのアクセス数が10,000点以上の館です。今年度の該当館は36館でした。

基準3点のうち、いずれかの基準を満たした館にお礼状をお送りさせていただきます。今年度の対象館は合計40館でした。2月中にはお礼状をお送りさせていただきますので、対象館の方は楽しみにお待ちください。

10. システム改修

今年の4月に、レファ協データベース機能の追加・変更を行います⁶。2月まで受託業者の方で設計、製造、及び、テストを行い、3月に国立国会図書館側でのテストを経て、4月から新システムの稼動を予定しています。以前より参加館の方からご要望をいただいていた点など、6項目の改修を行います。

①多言語対応 (UTF-8)

今までレファ協の画面で表示できなかった中国語・ハンゲルなど様々な言語の文字を扱えるようになります。

現在、データベース自体はUTF-8に対応していて多言語のデータを登録できるのですが、web上の表示ができなかったために、様々な文字が扱えない状態でした。この点を、今回改

⁵ 平成21年度 国立国会図書館長からの御礼状送付
[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/thanks_H21.html]

⁶ システム改修について(2010年3月末実施)
[http://crd.ndl.go.jp/jp/library/replace_201004.html]

修いたします。

レファ協の登録方法には、いくつかの方法がありますが、多言語 (UTF-8) 対応しているのは、web 画面あるいは、ファイル転送による xml ファイルの一括登録になります。これらの登録自体は現在も多言語対応していますので、登録方法はこれまでと変更ありません。

②詳細検索画面 Not 検索機能の追加

レファレンス事例の詳細検索画面で Not 検索機能の追加を行います。質問・回答・キーワードなどの「検索条件」、「NDC」、「提供館コード」で Not 検索を行うことができます。画面に、「何々を含む」、「含まない」、または「一致する」、「一致しない」というプルダウンが追加されます。

今まで自分の館の事例を除いた形で検索がしたい、といった Not 検索へのご要望の声をいただいておりますが、今回の改修で対応いたします。

③詳細表示画面 外部リンクの実現

詳細表示画面での外部リンクの実現です。

http、https ではじまる文字列を URL と判断し、そこから半角英数字、半角記号が続く範囲を外部リンクとして、自動的にリンクを作成します。

参考資料としてインターネット情報源を記載している場合など、すぐにそのサイトを参照することができるようになり、一般利用者の方には特に便利になるのではないかと思います。

次の表にあるような項目が外部リンクの対象になります。

レファレンス事例	回答
	回答プロセス
	事前調査事項
	参考資料(書誌的事項、備考とも)
	備考

調べ方マニュアル	調べ方
	参考資料(書誌的事項、備考とも)
	備考
特別コレクション	備考
参加館プロフィール	URL(現在も実現済み)

外部リンク実現の対象項目

外部リンクをさせたくないという場合は、http の前にアスタリスクをつける、もしくは、http を除いた形で記載してください。

④詳細表示画面 レイアウトの変更

詳細表示画面のレイアウトの変更についてですが、4箇所の変更点があります。

まず 1 つ目、画面タイトルに質問や調査テーマ等を表示します。現在は「レファレンス協同データベース」となっているため、yahoo!などの検索サイトの検索結果では、「レファレンス協同データベース」という単なる名前になってしまっています。画面タイトルを改善することで、検索結果に「世界最古の広告は何か」など、それぞれのデータの内容がわかるような検索結果になり、利用者の方にわかりやすくなります。

2 つ目に、一般利用者向けに「レファレンス協同データベースとは？」というリンクを追加いたします。今まで、詳細表示画面にレファ協についての説明がなかったために、事例とレファ協の関係がわかりにくくなっていました。レファ協とはこういうデータベースです、という内容の

ページへのリンクを貼ることで、これを改善します。

3 つ目ですが、提供館・事例作成日等を画面上部に移動します。現在は、提供館や事例作成日は画面の一番下にあってわかりにくかったため、上の方にもってくることにいたしました。

4 つ目は、「免責事項を記載したページへのリンクへの追加」です。これは外部リンクに関連しまして、「Web 上の情報については注意していますが責任は負いません」という一般的な免責事項が記載されたページへのリンクとなります。

⑤研修環境の追加⁷

新たに研修環境を作ることで、現在の本番環境での研修に比べると自由な使い方をしていただけるかと思えます。

研修環境には本番環境と同じアプリケーションを置きます。但し、一般ユーザー機能は提供いたしませんので、一般利用者から研修環境のデータを見ることはできません。また、アクセス先の URL は、本番環境とは異なったものにいたします。現在、研修環境の運用については受託業者と交渉中ですので、ご意見いただければ可能なものは反映していきたいと思っております。

研修環境の利用方法としては、大学の授業・演習、例えば、演習課題の結果を登録させて、受講生同士がお互いに見て、コメントし合うというような使い方や、レファ協にまだ参加されていない館での導入前の研修といった使い方があるのではないかと思います。

⁷ 研修環境の利用について
[<https://crd.ndl.go.jp/jp/library/kenshu.html>]
]

⑥検索用 API の公開⁸

一般公開レベルのレファレンス事例を検索し、取得するためのインタフェースを公開します。

検索は詳細検索の検索項目をベースとしていますが、加えて、「被参照数」と「登録番号」でのソートが追加されます。出力項目はすべてのデータになります。

取得可能データ数はテストにより決定する予定ですが、取得数を制限する場合でも、検索結果の何番目からデータを取得するかを指定できますので、繰り返し行っていただくことである程度のデータを取っていただくことが可能になります。

レファ協のデータを使つてのレファレンス事例の分析など、様々な利用方法があるのではないかと思います。

平成 21 年度の事業報告は、以上です。今年度もみなさまのご協力のおかげで、新しい参加館も増え、データ登録も進んでおります。ぜひ、これからも事業へのご協力をお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

⁸ 外部提供インタフェースについて
[<http://crd.ndl.go.jp/jp/library/api.html>]